

松沢裕作 准教授

専門：日本社会史(近世・近代史)

(インタビュアー：徳武・三須)

『西郷隆盛や坂本竜馬だけじゃない!!』

Q. 松沢先生の専門とされている研究内容はなんですか？

江戸から明治にかけて社会全体が大きく動きました。私はこの時代の農村社会、特に村の合併を研究しています。明治維新と言われるこの時期の人物としては西郷や坂本がすぐ思い浮かびますが、決して彼らだけが主役だったわけではないんです。「政府が村の合併を指導した」という通説がありますが、実際は村人自身の中に合併に向かう動きがあったんです。政府の押し付けではなく村の合併が社会で必要とされたというのが重要です！現在はこうして合併した後の村の仕組みについて研究をしているところです。

『経済理論と違いモデルはない!!』

Q. 松沢先生の教育理念を教えてください

歴史学の研究では簡単に結論が出ることはなく、混沌とした現実と向き合わねばなりません。学生には「社会は変わる」「世の中の仕組みは変わる」という前提の下、一筋縄ではいかない複雑な社会のありのままを見てもらいたいです。歴史学も経済学も共に社会科学ですが、歴史学は経済理論のようなモデルから出発するわけではありません。モデルという切れ味の鋭い武器だけでは立ち向かえなくなる時が来る。江戸～明治のように大きな社会変革が起こった時代などは特にそうなんです。

『卒論ですべて固まった!!』

Q. 松沢先生の学生時代のお話を聞かせてください

私は大学1, 2年の頃は合唱サークルに所属し、合唱漬けの生活を送っていました。中世やルネサンス期の宗教歌を歌ってたんですが、こういうのって楽譜が少ないため、慶應大学の図書館（旧館）に楽譜を探しに来たこともあるくらいです（笑）。慶應で働くようになってから旧館にあれ以来、初めて入りましたよ（笑）。私が歴史を専門として研究し始めたのは3年生になってからです。1, 2年の頃は漠然と研究者になりたいと思っていて、3, 4年では大学院へ行くことは決めていたのですが、研究者になれる自信はなかったです。私の頃は就職氷河期と呼ばれる時代でした。ですから中・高の教員免許を取りましたが採用もごくわずかでありとても不安でした。こうした中で私にとって最も大きな存在だったのが4年の卒論ですね。「今の自分の研究は、過去に実際に生きた人物の価値観の復元であり、かけがえのないことなんだ」と気づきました。

『歴史とは書物を読むことから始まる！！』

Q 松沢ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

歴史学の大前提ですが、「歴史」の「史」は書かれたものを意味します。ですから物を読むことがすべての始まりです。たとえば明治時代を研究するのであれば、明治時代の人が書いた文献（史料）を読むことから始まるわけです。今の時代、ネットですぐに情報を得ることができてしまう社会です。しかし歴史学においてはそれでは不十分で、自ら図書館に行って文献に当たる必要があります。せっかく慶應大学の図書館は優れているんですからどんどん活用してください。皆さんはとても恵まれた環境にいると思いますよ。用がなくてもぶらっと図書館に立ち寄るくらいでもいいと思います！！

『自ら歴史と向き合おう！！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

始まったばかりのゼミで決まっていないこともたくさんありますが、今実際にゼミでやっていることを紹介します。今は、1920年代の全く無名のとある人物が書いた日記をみんなで読んでいます。そして、この日記の時代と同時期の新聞とを比べて彼がどのように情報を得ていたのかなどを研究しています。この

ように3年のうちは皆で基礎体力を養って、最終的には自分でテーマを調べて、自分で考えて卒論を書きます。これがほんとに大事なことで、卒論を重要な位置付けとしています。ぜひ皆さんにも自分の力で歴史と向き合ってもらいたいです。

【編集後記】

今年度新規ゼミを開講された松沢教授は昨年度のゼミ説明会においてビデオレターという形で我々にゼミの紹介をして下さり、自分の中でとても印象に残っていました。

今回初めてお会いしインタビューをさせて頂くことになり、先生のことを事前に調べたのですが、輝かしい経歴に圧倒されてしまいました。

実際にお会いした時も松沢教授はとても知的な雰囲気を出しておりましたが、淡々とした語り口の奥に歴史に対してものすごく熱い気持ちを持たれているとインタビューさせて頂きながらひしひしと感じました。

今回のインタビューの大きな目的は2年生に松沢教授のゼミについて知ってもらおうということでしたが、インタビューをしている我々にとっても素晴らしい経験であり、また勉強になりました。

快くインタビューにご協力頂きましてありがとうございました。